

【第6回審議会意見シート】主な意見等

基本計画（骨子案）の内容について	【骨子案の内容に関する意見・提案】 ・ブロック分けの考え方について、「学校再編の具体を整理する」という言葉を使用しているが、表現が抽象的だと感じる。質問された時にわかりやすい説明ができるとよい。 ・人口推計で用いているコーホート要因法について、想定している出生率、転入・転出の前提を明記してほしい。 ・児童生徒数の将来見込みにおいて、「全ての学校において児童生徒数が減少する見込みではあるものの…」とあるが、減少を肯定し問題と認識できる表現に変更されたい。 ・ブロックの形態が分かりにくい印象を受ける。ブロックの境界線を太くするなどして認識しやすくしたり、河川や鉄道、主要道路などの地理的特性が示されるとよい。 ・ブロック候補案③④は、教育的な安定性は高いが、持続可能性と行政運営の調整が弱点だと思う。ブロック候補案②は、こども混在への配慮は必要だが、行政区の違いの影響が少なく、持続可能性も高いと思う。
	【今後の計画づくりにおいて重要な視点等に関する意見】 ・骨子案の内容で大事な項目は、次の①～⑥だと思う。 ①20年後を見据えた児童生徒数の推移 ②地域性・行政区を考慮に入れたブロック ③再編した学校の位置(通学距離との関係) ④再編による児童生徒の実態(文化の違いによる融合の困難さ) ⑤早急に対応すべき学校を含むブロックの検討 ⑥地域住民や保護者等の考え・意見 ・加須市の学校再編において、重要な視点は次の2点だと考える。 ①再び大規模な学校再編の検討が不要となるよう、20年先を見越した再編を行うこと。 ②「経験格差」をなくすこと。小規模校だとできない学校行事や教育課程があることを理解してもらう。
	【骨子案に対する意見募集に関する意見】 ・骨子案の内容が誘導的で恣意性が感じられると、市民からの信頼を失い、今後の意見募集において建設的な意見交換ができなくなってしまう。この点、この骨子案は十分に住民感情を意識しており、これまで検討してきたことが網羅された、丁寧な作りだと感じる。 ・保護者や市民の方が学校再編をどのように考えているのか気になる。皆さんの意見を計画づくりに生かしたい。

「考慮すべき事項」への対応における必要な視点	【児童生徒等への配慮】 ・異なる地域の学校が再編されることにより、これまで推進してきた地域密着型教育の融合をどのように図るか（各学校文化の融合、児童生徒の心情の融合） ・人間関係や学校環境の慣れ親しみからの不安解消 ・いじめ経験者のいじめ拡大への懸念 ・特別支援学級への配慮 ・児童生徒が戸惑わないよう、数年かけて段階的に進めてく必要性 ・保護者や地域、学校が連携し、再編後もこどもたちをフォローできる体制づくり
	【安全・安心な通学環境の確保】 ・スクールバスを導入するにしても、児童生徒の待機場所、通学時間、バス添乗員など、様々な問題の整理と改善をどう図るか ・通学時間拡大への不安解消 ・危険箇所の把握と見守り環境の確保 ・歩行・自転車利用の交通ルール教育 ・徒歩による通学距離は小学校から2 km 以内とすべき ・新たな通学路における安全対策 ・スクールバス導入に関する具体的な方法
	【教育における地域と学校の連携】 ・学校応援団、学校運営協議会などの再構築 ・再編によって失くしてはいけない教育活動・地域文化の融合の模索 ・ある程度の児童生徒数を考慮したブロック分けとなれば、地域スポーツも充実でき格差が少なくなるという利点がある
	【地域における拠点機能の継承】 ・住民の関心度が高い再編に伴う学校跡地について、地域における有効利用の施策など新たな施設としての利活用 ・地域行事の整理と教育への関わり方の再考察 ・都市計画との連動 ・災害時の活動拠点となる避難場所等の再編
	【保護者・地域住民との合意形成】 ・再編を望まない方への対応・救済 ・廃校による地域の痛み、不安の受容と説明

「考慮すべき事項」への対応における必要な視点	【その他の考慮すべき事項】 ・ 少子化による学校再編は「やむを得ないこと」というマイナス的なイメージや意識が強くなりがち。再編することの利点にも焦点を当て、不安を払拭するだけでなく期待感をもてる内容にまとめればよい ・ 4地域の枠組みを外すのは地元住民からすると難しいが、都市計画と連動して再編することの必要性は理解してもらいたい ・ 新校の設置に当たっては駐車スペースの確保や近くの道路整備も必要となる。生活圏が変われば民間路線バスの運行路線の変更もあるかもしれない ・ 新市長の政策により、子育て世帯の増加が期待できる。しかし、移住者の居住エリアが駅周辺などに偏った場合、将来的な教室不足等を招きかねない。新たな移住策が再編計画に少なからず影響することを想定し事前に検討しておくことも必要 ・ グループ協議の中で、北川辺を日本語以外を母国語にもつ方を市内全域から通えるように特区にしてはどうかという意見があった。親子で日本語を学ぶ特別な授業など、他市の事例も参考にしながらユニークな学びの形を創造してもいいかもしれない ・ 児童生徒の実態、地域性を考慮し、どのような学校形態がふさわしいのか、ブロックごとに検討していく必要がある ・ これからの時代を生きる児童生徒にしっかりと力を付ける学校教育でありたい。そのためには、教育環境・教育体制等の充実した取組が必須
その他ご意見など	・ 協議が具体的になるにつれ、細かな問題点が発生してくる。それらを整理・分類して、具体的な対応を検討していくことが必要 ・ これまでの協議を通して、協議内容が分かりにくい部分があった。協議をする際のポイント、何を考えるのかを明確に示してほしい ・ 今後、意見募集をしていくと、想像を超える意見が寄せられるだろう。その対応についても準備しておかなければならない ・ 今回の審議会（第6回）でブロック分けの考え方がまとまってきた。今までの審議があったからこそ一定の方向性を見い出せたので、市民には丁寧な説明が必要だと感じた ・ 再編計画が、加須市は子育てしやすい街・安心して教育を任せられる街だと認識され、加須市を離れる家族が減り、移住する家族が増えることにつながるとありがたい ・ 学校再編が、こどもたちだけでなく活気ある地域を維持し、市民が集うことのできる魅力ある拠点の形成につながってほしい ・ 毎回の意見集約と発表は学識経験者か校長会役員に任せた方が合理的かつ効率的に出来るのではないかな。リーダーにはその事を事前認識して貰った方が良いと思う ・ 加須市には、地域の温かさと学校の力が結びついた教育文化がある。学校再編においては、この「地域の教育力」をいかに維持していけるかが、極めて重要な鍵になると考える